○議長（鮫田洋平君）

それでは、通告2番、13番 井上光三君の一般質問を行います。

13番 井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

早速ですが、質問に入らせていただきますけれども、ちょっと今回、項目が大変多くなりましたので、簡潔に質問していきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。それでは一番最初に、感染症対策室についてお伺いをいたします。ご案内のとおり、今、新型コロナウイルスは今年に入ってから非常に、全国的に感染者が増えてきております。私たち富士川町でも、新聞を見ますと毎日感染者が確認されております。大変心配をしておりますが、町長が就任されて早速、感染症対策室を設置していただきましたけれども、行政にこういった室を作るというのは大変期待をしております、町民に向けても何らかの形で発信できるのではないかと感じているんですが、ちょっとここまでのところで気づいた点を質問させていただきます。まず1番目、2月1日付けで感染症対策室が設置されましたが、これは、これまでの組織体制にどのような課題があって設置されたのかお伺いをいたします。

○議長（鮫田洋平君）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまの質問にお答えいたします。新型コロナウイルス感染症の第5波までは、福祉保健課における感染症対策は、ほぼ完璧に近い状況で対応をさせていただいたと評価をしているところでございます。しかし長期における感染症との闘いにより、担当課内の業務は大幅に増えている状況。また、ワクチン接種などの対応により休日返上の状況が続く、通常の業務にも影響が及んでいる状況が長く続いているところでございます。

また、私が町長就任時までに入手していた情報ですと、欧米諸国を中心に、現在のオミクロン株の感染が広がっていくということ、情報を得ておりました。その感染力の速さというのも、これまでのデルタ株とは比較にならないスピードというものでございました。第6波で想定される感染者数も過去にないものになるのではないかとこのころ、当時ありました。

ですから、就任当時の判断として、現状の勢力では対応しきれない想定外の事態に備えていくために、新型コロナウイルス感染症対策の専門チームとしての組織を新設し、よりスピード感のある情報の収集および対策に取り組むべきだと考え設置したところでございます。以上でございます。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

再質問ですが、これまでも実はしっかりとした対策がとられていたんですね。各担当課ごとにしっかりとした対策をとられていたのを、対策室ということの一つにまとめたということなんですが、今、町長の答弁ですと、これまでのところがどこがいけなくて、こうすればこうなるんだということがもう少し分かれば、我々にも分かりますし、町民にも分かりやすいんですが、その点は、ここがこうだったからこういうものをしたんだということが、分かれば教えていただきたいのですが。

○議長（鮫田洋平君）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまの質問にお答えいたします。これまでの対応が悪いということではございません。ご案内のとおり、今現在、第6波という波、非常に第5波に比べて大きなものになっている。これを就任当初予想をしておりました。ですから、その対策室というものを設置して専門的にやらないと、担当、福祉保健課、さまざま業務を持ってる中で、先ほど答弁したとおり、コロナ感染症に対しですね、非常に疲弊している状態になっているんです。ですから、ある程度専門チームという部分を設置して、この第6波に対応しなければいけないという思いの中で、先手を打った行動だったというふうに思っておりますし、この行動は間違いなかったというふうに思っております。以上でございます。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

私もこういった専門チームで対応していくというのは、非常にいいことだと思っているのですけれども、であればですね、これまでも各担当ごとに対応していたのが、私はこれで効果があったと思っているのですが、そういう対策室を作るのであれば、町長直轄で、後でまた質問しますけれども、町長は県のセンターと連携してと。そういう情報は町長にも入ってくる部分もありますので、本来であれば本庁舎に置いたほうが私は効果があると思っているのですが、これ福祉保健課のほうに、町長と離れたところ、これまで政策補佐がやっていたところは、政策補佐も向こうへ行ってしまったけれども、担当課長とか、町長とは離れたところにいっていると。これは、私は本庁舎に置くべきではないかと思うのですが、これについてはどうお考えでしょうか。

○議長（鮫田洋平君）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまの質問にお答えいたします。やはりその人力的な部分ですね、これは富士川町の職員のその体制という部分、これを、対策室を私の直轄で置きたい、これは理想なのですよ。しかしですね、そうなった時に今度、福祉保健課の人員という部分が、かなり剥がされてしまう。ということであれば、その連絡というのは、蜜にとれるものですから、福祉保健課に置いて、足りないところはその担当課にも担っていただく。そして対策室もしっかり機能するという、こういった人力的なことを勘案しまして、現在の体制にしたところでございます。以上でございます。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

再質問なんですが、これを設置したことによって町民に対してどのような効果があるというふうにお考えでしょうか。

○議長（鮫田洋平君）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまの質問にお答えいたします。やはり専門の部署が設置されたということで、町民は安心感を持っていただけるというふうに思っております。事実、その新型コロナウイルス感染症対策室、情報が集中しています。ですから早い対応というのがですね、これまで以上にできているというふうに自負しているところでございます。以上でございます。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

次の質問にかかわることがありますので、再質問ではなくて2番目の質問に入ります。町長の所信表明でワンストップ相談窓口の役割を備えるという発言があったんです。この感染症対策について。これは町民への周知徹底はどのように行っているのか、お伺いをいたします。

○議長（鮫田洋平君）

福祉保健課長 中込裕子さん。

○福祉保健課長（中込裕子さん）

感染症対策室におきましてはワクチン接種業務の対応のほか、国及び県から示される新型コロナウイルス感染症対策に関するさまざまな情報の収集に努めております。特に、感染症対策に関する事業につきましては、関係する担当部署と情報共有を行いながら迅速な対応に努めております。

一方、町民の皆さまからの相談につきましては、内容を整理しながら、町の

担当課や県の窓口へつなぐ対応をしているところであります。

現在、第6波による感染拡大により、度重なる国の追加接種前倒し指示によるワクチン接種業務が重なっていることから、現在、ワクチン接種業務に追われている状況であります。

今後も、国及び県などの新たな支援に関する情報が確認でき次第、関係部署と連携を図りながら、町民の皆さまのご要望にお応えできるワンストップ相談窓口の対応に向け、広報やホームページを通じ、情報発信して参りたいと考えております。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

再質問ですが、今、課長の答弁にあったように、今行われているのはワクチン接種の業務のほとんどなのですね。感染症対策室として一本化して行っている業務というのは、なかなかほかのところが見えてこない部分があるのですね。町民に周知ということで質問させていただいたのですが、これは2月1日に設置されて、こういう形でこういうふうにしますよというのが、広報にも載っていないのです。ホームページにも載っていないのですね。町長の所信のあいさつの中には出てくるのですが、感染症対策室を設置したということ。新聞記事にも設置というのが出てきますけれども、町として町民には何も知らされていないのですね。ですから、どういう仕事をしてくれるのかということもよく分かっていない。現状ではワクチン接種の、これは今ちょうど忙しいですから、第3回目のワクチンということで、これは分かります。業務が多忙であるというのは大変分かりますが、ほかのことをやってくれるのかなというふうなことも町民は関心を持っているのですね。だけれども知らない人もいます。対策室を。今後どういうふうに、このところは町民に周知していきますか。お願いします。

○議長（鮫田洋平君）

福祉保健課長 中込裕子さん。

○福祉保健課長（中込裕子さん）

ただいまの井上議員の、今後の周知についてのご質問にお答えいたします。現在、感染症対策室におきまして、それぞれ県で行う対策の事業、それから町で行っている対策の事業の相談に関する対応表をまとめております。そちらのほうと、それから今後の対策室のこういうことをしていますよというような内容につきましては、4月の広報のほうに掲載をさせていく予定でございます。またそれと同時に、ホームページ等でも周知をしていく予定でございます。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

ぜひ、この対策室の役割はこうですよということを、町民に知らせてほしいと思っているのですよ。今の課長の答弁の中には、今後広報等で知らせると。その中には、今現状はワクチンのことですよね。今対策室でやっているのは。そうじゃなくて、町長のお考えのとおり一本化して、こういうことで対策をするんだということを町民に知らせてほしいと思っています。町レベルでこの感染を食い止めるなんてことはできないわけですよ。町として何ができるか。一本化しているわけですから、何ができるかということ、ぜひ町民に知らせてほしいと思います。

3番目の質問に入ります。対策室を設置したわけですから、新年度に向けて新型コロナウイルス感染症対策に関して、町としてどのような事業を計画しているのかお伺いをいたします。

○議長（鮫田洋平君）

福祉保健課長 中込裕子さん。

○福祉保健課長（中込裕子さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。連日、新型コロナウイルスの新規感染者の情報が報道され、感染拡大防止が喫緊の課題となっております。このような中、現在、新型コロナウイルス感染症対策においては、有効性が認められておりますワクチン接種については、18歳以上の追加接種に取り組んでいるところであり、2回目接種から6ヶ月を経過した方につきましては、概ね4月末までに追加接種を完了する見込みであります。

また、3月から始まる5歳から11歳の小児の接種につきましては、まず3月27日に1回目、4月17日に2回目を予定しているところであります。その後は、ワクチンの分配状況に応じ、順次、接種希望者に対し接種ができるよう体制を整えて参ります。

いまだ方針が示されていない18歳未満の追加接種につきましては、国の状況を注視し、迅速な対応に努めることとしております。このことから、当面の間は、ワクチン接種に全力を傾注していくこととしております。

またこのほか、アフターコロナを見据え、地方創生臨時交付金の状況なども鑑み、町民の皆さまの生活支援に向けた施策を検討して参りたいと考えております。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

今の答弁ですと、町独自ということよりも、特に国の制度であるワクチン接

種に今特化している状況ですよ。せっかく対策室を作ったんですから、例えば町として感染予防をどうするのだということも含めて、この対策室でやっていただきたい。そういう思いがあるのですが、ワクチン接種だけですと対策室を設置する前とまったく変わらないのですよね。福祉保健課で既にやっていただきましたし、我々町民が希望するような形でやっていただいていたのです。室というものを作っただけということではなくて、やっていただきたいのですが、その感染予防とか含めて、町独自の何か考えるということはありませんか。お伺いします。

○議長（鮫田洋平君）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまの質問にお答えいたします。新型コロナウイルス感染症対策室を設置したことにより、実は卒業式の抗原検査キット入手という部分。抗原検査キットが非常に品薄になるよという、そういう情報。それをいち早くキャッチしましてですね、我が町は専決処分で今議会に提出させていただいておりますとおり、専決処分で、その抗原検査キットを入手している。またの県のCDCと情報を直結していることによって、スムーズな早い情報収集ができていますということでございます。ですから目には見えていませんが、この対策室を設置したことによってですね、町の動きというのは、またさらに早くなって、より町民に安心安全の場を提供しているということでございます。以上でございます。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

対策室は、新型コロナウイルス感染症に関することは一つにまとめるということなのですが、今現状ですとそうでもない部分が結構あるんですよ。例えば、今度臨時交付金の説明も受けましたけれども、非課税世帯、それから一人親家族、これはそれぞれどこが担当しますか。

○議長（鮫田洋平君）

福祉保健課長 中込裕子さん。

○福祉保健課長（中込裕子さん）

ただいまの質問にお答えします。今度行われます非課税世帯の給付、それから家計急変世帯の給付に関しましては、福祉保健課の福祉担当のほうで事業を行っております。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

これは両方とも福祉保健課、対策室と考えてよろしいのでしょうか。伺います。

○議長（鮫田洋平君）

福祉保健課長 中込裕子さん。

○福祉保健課長（中込裕子さん）

答えいたします。この新型コロナウイルス感染症に関する対策という事業につきましては、それぞれの担当課で実施しております。それはやはり、担当課における専門性ということがございますので、間違いのないというところで、それぞれの事業は担当課で行っておりますので、そこに関わる直接的な相談とか、申請の窓口はそれぞれになっております。しかしながら、それを総括して国の臨時交付金等に係る財政的な部分、またそれをどういうふうに担当課に振り分けていくか。そういった部分については、対策室長を中心にいたしまして、新型コロナウイルス感染症対策室で実際に業務を行っているところであります。以上です。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

課長のおっしゃるとおりなのですよ。担当課でないとできない部分があるのですよね。ですから、たとえば今後、新たに事業者に対する給付金がくれば担当課になるのですが、それを一本にまとめていくということなんでしようけれども、町民は対策室には電話しないのですよね。担当課に電話するのですよ。ですからその連携をどうするかということも町民はよく見えてこないということですから、しっかりとやっていただきたいと思います。私は、この対策は非常にいいことだと思っていますので、ぜひ、町民のための対策室になるようお願いをしたいと思います。

では次の質問に入ります。2番目の質問ですが、副町長の設置についてです。今回副町長がご退職されて、副町長の席は空いています。1番目の質問ですが、一つしかありませんが、公務や政務を行う上で、町長が不在になることが数多くあると感じています。副町長の位置づけは重要でありまして、今後町政を推進するに当たっては副町長設置が必要であると考えていますが、町長の考えを伺います。

○議長（鮫田洋平君）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまの質問にお答えします。端的に申し上げますと、ここにいる職員全員が副町長の役割をしていただきたいというふうに思っております。町長を補

佐する副町長の役割はですね、重要性は認識しているところでございますが、当面副町長は置かずに、できる限り自ら直接動いていきたいと考えております。不在時には、政策秘書課長、また会計管理者を筆頭に各課の課長に代理として職務を任せたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

当面は、副町長は設置されないという考えなのですが、これまで見てきまして、町長の仕事は非常に多様なですね。公務と政務を分けて、町長は仕事をされているということなのですね。町長は外交というか、特に政務の仕事が多くなるのでしょうか、ぜひこれからも県に出向いて、あるいは国に出向いて財源を確保していただきたいと。こういう仕事が大変重要になってくると私は感じているのですが、そうしますと、外交公的などで町長が不在になることが多くなると、私は副町長がいたほうが町の活性化にもつながりますし、全体的な面を、町長不在のところを副町長がみてもらえるということで、当面は置かないということなのですが、ぜひその辺をちょっと考えていただきたいと思いますが、再度お願いいたします。

○議長（鮫田洋平君）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまの質問にお答えいたします。まさに副町長の仕事ということ、非常に大事な仕事だというふうに考えております。しかしながら、私はチームワークというのを重視していきたいというふうに思っております。例えば、ほかの県からとか、国からとか、別のところから副町長を連れてきて置いたと過程します。そうしたときに、やはり組織として何も知らない人がこの町に来て、上から指揮をとる。これは職員に対して、私は失礼じゃないかなというふうに感じています。それぞれの担当課が、日々全力で業務をしていただいていること。1か月半の中で、肌で感じています。だからこそ職員を信頼して、そしてみんなでチームワークで新しい町、何かと人的不足という部分もあります。財政的な部分、苦しい部分もありますが、何とかこのメンバーで頑張っていきたいという思いでございます。以上でございます。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

町長のお考えはよくわかります。職員一丸となってというのも、よくわかりますし、ただちょっと私が心配しているのは、町長就任以降ですが、一部の幹

部の課長さんに、負担が大変偏っているような感じが、私はそういうところが見えるのですね。ですから、たとえば、私はその組織体制全体も見直す必要があるのかなと思いますし、今回、政策補佐がこの感染症対策室のほうに一人いきました。政策補佐の役割も非常に重要だったのですね。そこは人はいなくなりました。こういうところで、大変心配をしているのです。今現在、町長は就任以降、公務と政務の区分をどのように分けてやっているのか、お伺いしたいのですが。

○議長（鮫田洋平君）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまの質問にお答えいたします。まさに職員の皆さん、これまでも、また私が就任した以降も非常に厳しい環境で、残業もかなり多い中でやっております。それで、公務と政務のすみ分けということですが、町長としてやるべき仕事を、すみ分けなく進めてやっているつもりでございます。私も職員といっしょに全力で、スケジュールを見ていただければわかると思いますが、全力でやっているところでございます。力合わせて、前に進んでいきたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

町長、大変お若いですから、でもやっぱり町長にしわ寄せが行くことも私は心配しているのですね。町長の健康状態が悪くなるようなことがあれば、私はそれは心配ですし、ぜひ、ここは副町長の設置以上に組織体制についても考えてほしいと思っています。この件についてはこれで終わりたいと思います。

次に3番目、中学校統合についての質問に入ります。ここにつきましては、先ほど望月議員が質問いたしましたので、重なるところは省いていきたいと思っております。まず1番目の質問です。先ほどの望月議員の質問にもありまして、その答弁にもありましたように、これまで中学校統合については、町レベルで、議会レベルで、相当議論をし、話し合ってきました。お伺いしたいのは、これまで教育委員会や議会が検討をしてきたことについて、すべて反故にするのか、お伺いいたします。

○議長（鮫田洋平君）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまの質問にお答えいたします。教育委員会および議会で議論を進めて反故にするということではございません。これまでの議論を尊重しつつも、そ

の経過を発信して、町民の意思をとらえる機会というものは、これまでは少なかつたと考えています。その判断のもと、丁寧な議論をもう一度進めてほしいという思いでございます。住民および学校現場、保護者、子どもたちの考え、意見をもう一度聞いて、未来に向けた最良の選択をしていきたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

私も説明不足のところがあったところがあれば、十分な説明をしていただきたい。ここはやっぱり町民が、ここは聞いていなかったということのないように、それはしっかりと説明をしていただきたいというのは、考えは一緒でございますので、ぜひお願いしたいのですが、今町長の答弁ですと、すべて反故にはしないとありますが、例えば町民に、保護者、子どもたちに説明をして、これまで決めてきたこと以外の意見が出てきたときには、そのときはどうしてお考えでしょうか。

○議長（鮫田洋平君）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまの質問にお答えいたします。さまざまの意見を聞いて、その全ての意見をかなえるということは、これは到底無理な話でございます。ですから、その意見をしっかりと参考にしながら、当然、議会の皆さまも参考にさせていただきながら、私は起案をしていく。そして議会は議決をしていただきたいというふうに思っております。ですから、すべての意見、これは受け止めますけれども、その中でやっぱり選択をしていく。熟議を重ねて選択をしていくのは我々の仕事だというふうに思っております。以上でございます。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

この中学校統合については、私たち議会もだいぶ前から議論を進めてきました。先ほどの望月議員の質問の中にもありましたけれども、これは議会で議論が始まったのは合併したあと、小学校が2つ閉校になりました。そのときの議論の中で中学校はどうするのですかというのが、議会の中ではすでに出てきているのです。そのときは教育委員会としては鯉沢中学校は当面の間、このままですよということだったのですが、その後、先ほど評議委員会ではこういう経緯でやりましたという、その以前のところだけちょっと話しますと、議会では平成27年6月と平成29年6月に、議員の一般質問で鯉沢中学校の存続につ

いて質問をしているのです。そのあと、平成30年6月、先ほど望月議員が言った深澤議員が初めて統合について質問しているのです。そのときの当局の答弁は、学校の再編について検討しますということの答弁がありました。学校の再編について、まず総合教育会議で再編をどうするかということを検討されて、そのあと段階を追って提言書をまとめた。最終的には第2次学校規模適正化基本方針を策定した。その中に、中学校はこれこれこういうことです。鯉沢中と増穂中は統合しますよと、ここではじめて出てくるのです。第2次適正化基本方針を最終的に作ったのは令和2年1月です。その前に何回も議論がされているのです。そうしてきた中で、重なりますけれども、議会でも特別委員会まで作って、特別委員会はこれまで8回やっているのです。議会では。その中で議論をしてきているのです。町長の答弁ですと、十分な説明を行って、出てきた意見を集約しながらということですから、今、違う意見が出てきた場合はどうなるのですかと言ったら、そこはそこで判断をします。私が心配しているのは、先ほど望月議員のときに町長は、鯉沢中と増穂中の考え方が違いますよという話をされたのです。賛成反対で、もしいった場合、鯉沢中は小さくなったから統合してほしい、でも人数が少ないです。そういう意見の方は。増穂中は、何も統合しなくたってうちの学校は大丈夫だという意見が多ければ、こちらは人数が多い。結局、統合してほしいのは少なく、しなくていいのが多いと、それを判断されると非常に、これまで私たちは町民を代表している議員です。町民に負託されて町民の意見としてここで議論をしているんです。そういう意見が出てきた時に、そちらに判断されると非常に、議会はどのようになるのだろうということになるので、その辺のお考えがどうなのでしょう。

○議長（鮫田洋平君）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまの質問にお答えいたします。ですから先ほども申したとおり、やはり最終的に決断するのは、議会の議決というのは、この町の一番の最高決定機関でございます。その判断材料として、しっかりと町民との対話をしてほしいということ。これは議会の権能だと私は思っております。これまでもやってきていただいたとは思いますが、まだまだ私の感触では、町民の皆さん、保護者の皆さんとの対話というのは、当然執行部側も少なかったという認識でございます。ですから、今回執行部側で行いますが、議会の皆さんもしっかりと改めて町民の皆さんと対話をしていただきながら、そして、いいあり方を考えていければなどと思っております。以上でございます。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

余り時間がないのですが、私も対話は必要だと思っていますし、十分やっていただきたいと思います。議会とも連携をとっていただければと思っていますが、2番目の質問に入ります。町長の所信表明の中で、今後についてさまざまな禍根を残す状況という発言があったのです。これは、私はどういうことかなと思ひまして、何が禍根を残しているということなのでしょう。お伺いします。

○議長（鮫田洋平君）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまの質問にお答えいたします。やはり、これまでの議論、議会でも長く、その熟議を重ねてきたと思っておりますが、その議論のアウトプット、保護者への説明会、これは一度しかされてない、これは事実なのです。説明会を一度しかしていない統合というのは、私はあり得ないというふうに思っております。説明不足のままの中学の統合を強引に進めることによって禍根が残るという判断のよとの発言でございます。以上でございます。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

そうしますと禍根というのは、その説明不足だったというところだけでしょうか。もう一度お願いします。

○議長（鮫田洋平君）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまの質問にお答えします。説明不足というのも大きいですが、方向性の決定という部分も、これも禍根に残すのではないかと考えています。ですから、保護者にしてみれば、もしくはこの議論に参加しなかった町民にしてみれば、一部の方々に議論して、コップの中の嵐のことを決めて、それをおろしてきたという感覚を持っている方もいらっしゃると思います。ですから、それをすばらしい議論をしてきたことを、みんなに公表して、そして足並みをそろえて、対話を進めながら進めていければなというふうに思っております。以上でございます。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

これは私たち議会も、議会でこれだけ議論してきましたよということを町民

に伝わっていなかったというとは、我々議会も反省しなければならないということなのですね。町長がおっしゃるように、説明はやっぱり十分な説明が必要だと私も思っていますし、今回、延期しましたということですから、この間に十分な説明をしていただいて、町長、前の答弁の時に秋ごろまでにはと言いましたけれども、それまでにしっかりと十分な説明をしていただきたい。一つ、私が心配しているのは、この前の質問の中で、すべて反故にするのかということ、そうではないですよというご答弁をいただきましたので、これを禍根というと、これがすべて別な方向に行ってしまうと、いままで議論して、議論にかかわってきた人たちに対して、逆に禍根が残るような感じになるのですよ。ですから、その辺はどういう方向でやっていく予定でしょうか。

○議長（鮫田洋平君）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまの質問にお答えいたします。ですから方向性が仮に、今までの議論と違う方向になったということを前提に答弁いたしますと、そうなったときにも、これまで議論してきた方々と、その結果を、またさらに議論を進めるということです。ですから全体のコンセンサスをとってこうということでございます。もしかすると同じ方向になるかもしれませんが、もしかすると違う方向になるかもしれない、一部同じ、違う方向になるかもしれません。そういったことを、しっかりと町民と対話をしながら、ともに進めていきたいなというふうに思っています。以上でございます。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

あんまり時間がないのですが、一つだけ、我々議会もずっと議論してきました。町民に対して説明不足があったことは反省します。ただ、町のやり方が、今後議会と連携しながらぜひやってほしいというのは、ついこの前、教育委員会から保護者宛に通知を出しました。2回出しているのです。最初のところは、我々議会も全く分からないところで、知らないところでいった。それで、特別委員会を開いて、町長に来てもらって説明をいただきましたけれども、そういうことがないように、こういうことを今度こう進めますというのは、ぜひ議会は、中学校の特別委員会を作っているわけですから、ぜひ連携をしてほしいと思います。これは、ここで以上でやめたいと思います。

次に移ります。次は実質公債費比率の健全化判断についてです。簡単にいきます。(1)町の財政の健全性を示す指標は、法律に基づいて健全化法、地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づいて財政健全化を判断する。これ

が一般的であります。その一つとして、実質公債費比率があるのですが、町長の所信表明では、この実質公債費比率が悪化していると発言しているのですが、この悪化と明言した根拠をちょっとお伺いいたします。

○議長（鮫田洋平君）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまの質問にお答えいたします。標準財政規模に対する一般会計等が負担する当該年度の元利償還金等の割合を示す実質公債費比率でございます。これは議員も承知のとおりでございますが、毎年公表されているものでございます。富士川町の実質公債費比率、3カ年平均値、これは毎年公表されています。単純に並べただけです。平成27年度が9.6、平成28年度が9.9、平成29年度が10.6、平成30年度が11.1、令和元年度が12.1、令和2年度が12.3となっており年々上昇しています。ちなみに全国・県内ともに、実質公債費比率の平均値は10年以上にわたり低下しているというのが実情です。そういった趨勢の中、富士川町は逆行するように上昇しているということを抑えて、年々悪化しているという、単純に数字を並べただけの表現でございます。以上でございます。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

この町の財政の健全化については、私たち議会も厳しくチェックをさせていただいているのです。こうなると、これだめでしょう。町は財政が大変厳しい中でこんなことはだめでしょうということは、チェックの中で発言をさせていただいているのですが、これまで、この健全化については、健全化法の中で、健全化基準で実質公債費比率については、ご存じのとおりなのでしょうけれども、早期健全化基準は25%。財政再生基準が35%です。早期健全化25%が一般的にイエローカードと言われていています。35%がレッドカードと言われていています。イエローカードの前に18%。ここは起債をするのに協議をして、許可が必要です。私たちはこの18%を目途に、18%に限りなく近くなるようだとだめですよということです。数年後まで見通しを見ながら、ここは起債をしても大丈夫でしょうということで、議会としては判断をしながら、厳しくチェックをしているのです。

今、町長の答弁のように、令和2年度は12.3%。ここまで上がってきました。普通、上り下がり悪化とか改善とか、この健全化の中ではそういう言い方をしなくて何ポイント上がりました、何ポイント下がりました、0.何ポイント上がりました、0.何ポイント下がりました。これまでの説明では、す

べて財政が健全ですかという議会の質問に対して、健全ですと答えてもらっています。これを悪化と捉えると、これは町長は健全でないと考えているのでしょうか。お伺いします。

○議長（鮫田洋平君）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまの質問にお答えします。現在の町の財政が健全ではないとは一言も申しておりません。ただ全国的な趨勢の中で、実質公債費比率だけを切り取って、それが改善傾向にある中で、町のほうが上昇しているという部分。これに対して悪化しているという表現をただけでございます。もっとわかりやすく言うと、海で遊泳の可能なエリアがあります。今、遊泳可能なエリアで泳いでいるんです。しかし、夕暮れになってきました。台風が近づいているかもしれません。その遊泳可能エリアにどンドンどンドン、その沖のほうに行っていくのかどうかと。簡単に言うと、こういう警告です。ですから、これをきっかけに町の財産は、今現在は健全です。しかし将来的にどうなるかというのを皆さんで考えましょう、こういう発信のもとに発言させていただきました。以上でございます。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

健全ということで判断していただければよろしいんですが、私たちも議会でチェックする立場ですから、見通しを含めて、チェックをさせていただいてるのです。今後、2年度12.3ですが、私の見通しでは今年度は数ポイント上がる。また10%より下がっていくでしょう。ただし、庁舎関係が据え置き5年が過ぎますと、また上がってくると。そういうものを見通しながら、じゃあ今回、こういう事業をやって、起債をしても大丈夫でしょうということで、我々としてはチェックをさせていただいているんです。その辺、ちょっと時間がないので、ここはこれで終わりたいと思います。

では次に移ります。5番目、メディカルタウン構想について、これも町長が掲げて、私も非常に興味を持っていますのでお伺いしたいのですが、町長が掲げるメディカルタウン構想の具体案をお伺いします。

○議長（鮫田洋平君）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまの質問にお答えいたします。2025年には、いわゆる団塊の世代がすべて75歳以上となってきます。今後、医療・介護の需要がさらに大きく

なると想定します。わが町においても、今後必要な医療ニーズを確保するには、しっかりと対応していかなくやいけないという考えでございます。まずは富士川町内の診療所や開業医による外来診療など、日常的な医療を提供する1次医療と救急医療などの一般的な入院治療が完結できる2次医療である、峡南医療センターとのさらなる連携の強化を考えているところでございます。また、将来的には、その開業医や医療福祉関連法人等の町内進出を促すような方策、これができたらいいなと考えてございます。以上でございます。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

そうしますと、主に連携のところを特化してメディカルタウン構想ということなのですね。これはちょっと勘違いする場合があります。ハード的な面なのか。例えばここ一帯を、医療の一帯にしようとかということではないのですね。時間がないので、その辺だけちょっと、ハードなのか、ソフトなのかですね。

○議長（鮫田洋平君）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

まだ、このメディカルタウン構想というのは、しっかりと具体的な検討段階には入っておりません。検討の中で、将来的に今議員がおっしゃったようなハード的な部分というのも可能であれば考えていきたいと思っております。以上でございます。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

ここは余り時間を使いませんけれども、できれば一次医療二次医療だけでなく、やっぱり患者を中心に、患者として一次二次三次、すべてが連携できるように体制をとっていただきたいと。また、そういう構想があった時は、ぜひ議会とも相談しながらやっていただければと思います。

では次に移ります。討論型世論調査、これも町長が発言の中に、討論型世論調査を導入し、民意に基づいて決断するという発言をされているのですが、これはどのような事案について実施されていくのでしょうか。お伺いします。

○議長（鮫田洋平君）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまの質問にお答えいたします。例えば市町村合併などの町の方向性を

左右するような大きな政策課題が生じたときに、住民の意思を調査し、政策決定を補完するときの一つの手段として、討論型世論調査の導入を検討していきたいと考えています。これまでの意向調査などでは、一般的に十分な情報を持ち得ない中での調査となり、態度や意思を決めかねたり、一過性の感情による判断に陥る可能性が指摘されています。こうした既存の集計民主主義の欠点を補完するために、十分な情報や基礎データに基づき調査を行うものでございます。ただ、完全な討論型世論調査は労力や時間がかかりますので、政策課題や実情に合わせた簡素化した調査方法を検討したいと考えております。以上でございます。

○議長（鮫田洋平君）

井上議員、残り5分を切りました。よろしく願いいたします。

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

はい。ここはもう少し突っ込みたいところですが、これ非常に難しいんです。私もいろいろ調べましたし、何年か前にこういうものがあるなど。重要な事項だということだけで、ここだけ聞きたいです。ただ、その結果があつて、町議会との関連をどうするのかそこだけ聞きたいのですね。

○議長（鮫田洋平君）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまの質問にお答えいたします。討論型世論調査も調査の一環でございます。町の最上位の最終決定機関は議会でございます。ですから、その調査のための公共政策を考える参考として扱うものでございます。以上でございます。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

時間がありませんので、7番の農林業体験宿泊交流施設についてお伺いします。4月からの運営をどのように行っていくのか伺います。

○議長（鮫田洋平君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。この農林業体験宿泊交流施設につきましては、平林地区に滞在できる施設として運営するために国の補助金を活用し、今月完成の見込みとなっております。この施設の運営につきましては、平林活性化組合と協議し、4月から指定管理者としてお願いするよう計画をして参りました。

しかし、町の提案内容が決まらず、活性化組合との協議が遅れており、今定例会に指定管理の指定案件が提出できなかったため、指定管理者を議会でご議決いただくまでは、町が運営を行っていくこととしております。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

これは指定管理がまだ委託できていないというか、対応できていないということですが、直営でやるとなると、すべて宿泊受け入れ等、全部対応できるのでしょうか。お伺いします。

○議長（鮫田洋平君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

今回の運営につきましてのご質問にお答えいたします。この宿泊施設につきましては、県外からの柵田オーナーが、日帰りではなく、平林に滞在をできるような宿泊施設として検討を始めたところでございます。なので、町が直営として運営していくとしましても、貸出しにつきましては、この柵田オーナーの方々に先に周知をしてからということで、4月の中旬以降、柵田オーナーの方に周知をしましてからスタートをしたいと考えております。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

そうしますと、柵田オーナーの受け入れを、町が直接受け入れをするまでに指定管理をやるということなのですか。それとも指定管理が決まるまでは、そのところを聞きたいのです。指定管理が決まるまでは、町ができるのかどうか。例えば、産業振興課の職員が全部受け入れ等するのか。向こうに行って管理もするのか、その辺をお伺いしたいのです。

○議長（鮫田洋平君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

今の現状ですと、指定管理が決まっておりませんので、担当課のほうで運営をしていくこととなっております。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

時間も迫ってきているのですが、本来ですと、例えば5月の連休あたり、私は、受け入れが書き入れ時じゃないかと思うんですが、その5月、6月の対応

はどうなのでしょう。できるのですか。

○議長（鮫田洋平君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。5月、6月ごろということを考えますと、今の現状ですと予算等も計上しておりませんので、多分難しいかとは考えますので、それまでには指定管理をご議決いただけますように、こちらのほうで、ご議決いただいた後になりますけれども、その後、すぐに指定管理者のほうに引継ぎたいと考えております。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

そうなんです。予算が計上されていないのです。これはまた当初予算の審議のときに質問させていただきましても、建物の維持管理費だけしか計上されていないのです。運営費の計上はされてないのです。これはまた後で委員会のときに質問します。

では、時間がありませんので（2）になります。これまでの説明では、みさき耕舎との連携が不可欠である。平林活性化組合と運営について協議していると、先ほどの平林活性化組合に指定管理を任せたいという発言もありましたけれども、これまでどのような協議を行ってきたかお伺いします。

○議長（鮫田洋平君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

これまで平林活性化組合との運営方法の協議につきましては、昨年10月から活性化組合の役員や担当者間で、計3回実施をしております。

協議内容としましては、棚田オーナー、各種農業体験利用者の状況把握、宿泊をした場合のニーズ等のヒアリング、宿泊者や施設運営者の動線の確認を行いました。また、客層は異なりますが、増穂ふるさと自然塾でのコテージの運営方法などを参考に課題の抽出を行い、現在、協議を進めているところでございます。

今後は、施設全体および各宿泊棟の名称の決定や、平林区と隣接するグラウンドの使用や屋外トイレの管理に関して調整を行い、運営内容を確定した後、指定管理の協定につなげて参りたいと考えております。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

これは、余りにも協議が遅いというか、3回しかやっていませんよね。3月に建物が仕上がります。4月にスタートします。それで当初2月ごろ、条例はどうなっているのかなという話で、やっと今回の議会に条例が出てきました。条例では4月1日から、条例施行日ですね。条例の審査の時にも言いますけれども非常に協議が遅い。私はみさき校舎を管理している平林活性化組合にお願いするのは、これは一番いいと思っているのですが、受けるほうだって、これは困りますよね。いろいろなアドバイスをしながら、何回も何回も協議をして、新しい事業ですから。宿泊者が宿泊をする建物ですから、私は平林活性化組合だって困っていると思いますよ。これは町がアドバイスをしながら、ぜひやっていただきたいと思いますが、そうしますと、これはいつ指定管理が出てくるのですか。これは初議会だとちょっとおかしいですね。初議会というのは、他の議案をやるのはちょっと好ましくないでしょうから、指定管理の議案としてはいつ出てくるのでしょうか。

○議長（鮫田洋平君）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

ただいまの質問にお答えいたします。指定管理の部分も今一生懸命交渉をしているところでございます。相手があることでございます。その交渉がしっかりとすりあって、議論が熟してから、やっぱり議会に上程したいという思いでございます。交渉事です。相手があるということをぜひご理解いただきながら、しっかりと進めていきたいというふうに考えています。以上でございます。

○議長（鮫田洋平君）

井上光三君。

○13番議員（井上光三君）

これは町の進め方なのですけれども、もうすでに建物が仕上がりました。4月からスタートします。条例も提案されています。ここで、もう指定管理の議案が提出されないと、本来ならばおかしいのですよね。これは、私は活性化組合の皆さんは大変困っていると。私だったら、受けるほうがどんなことをすればいいのか、町と相談しながらやっていかなければならないのに、これでいいのかと、非常に心配だと思うのですよ。ですから、ぜひ、早急に細かいところを打ち合わせしていただいて、やっていただきたいと思います。時間がございません。まだまだ、いろいろな再質問をしたかったのですが、時間もありませんので、以上で私の質問は終わりたいと思います。

○議長（鮫田洋平君）

以上で通告2番 13番 井上光三君の一般質問を終わります。